

第 17 期 pES club シナリオ 3

平成 30 年 3 月 21 日
東京北医療センター 総合診療科
南郷 栄秀
<http://spell.umin.jp>

あなたは、女戸線診療所に勤務する 3 年目総合診療専門医です。先日、実家にいる母親（宗板伊乃，74 歳女性）から電話がかかってきました。他愛もない近況報告をしていたら、突然、次のように切り出されました。

母親「あ、そうそう、明日、入院することになったから」

あなた「えっ!？」

母親「カテーテル検査をするの」

あなた「え、なんで？」

母親「3ヶ月前から胸が痛くて」

あなた「え？そんなの初めて聞いたよ」

母親「初めて言ったもの」

あなた「で、どんなふうに痛いの？」

母親「ずっと痛くて、寝ていても歩いていても痛くて。だんだんひどくなっているのよ」

あなた「狭心症が疑われたんだね。それで、なんで心臓カテーテル検査をやることになったの??それ本当に必要？」

母親「心電図の負荷試験というのをやったら、異常が出たんだって。先生がすぐにやったほうが良いというから、明日入院することになったのよ」

あなた「負荷試験ってトレッドミルっていうやつ?ベルトコンベアの上を歩いて心電図を測るというやつ？」

母親「そうそう、それ」

あなたは、母親が、医師である自分に何の相談もなく、心臓カテーテル検査という侵襲性の高い検査をやることを決めたことにショックを受けました。そして、トレッドミル検査が狭心症の診断にどれくらい役に立つのか疑問に思い、あらためて調べてみることにしました。